

読売新聞 きょう（2月22日）のイチ押し

一面 コロナ病床1年以内に廃止 5類移行後医療体制

新型コロナウイルスの感染法上の分類を5月8日から5類に引き下げることに伴い、医療提供体制を段階的に正常化する政府移行案が明らかになりました。コロナ病床は当面は継続して、1年以内の廃止を目指します。

- ★移行案では、5月以降に「幅広い病院」で計約4万6000床の体制として、移行期間終了後はコロナ病床という位置づけをなくして、国内のすべての病院で対応できるように支援するとしています。
- ★現在は4万2000か所に対応している発熱外来は、順次、受診できる医療機関の拡大を図ります。診療報酬の特例は段階的に廃止します。
- ★政府は、医療提供体制に加え、医療費の公的負担と高齢者施設への支援についても、移行案を検討していて、3月上旬をめどに公表する予定です。

一面・社会面 パンダの永明お別れ 「シャンシャン」は中国到着

和歌山県白浜町の「アドベンチャーワールド」で、中国への返還を翌日に控えたジャイアントパンダ「永明」と双子の娘「桜浜」と「桃浜」のお別れセレモニーが行われました。21日は最終の観覧日で、園には朝から多くのファンが訪れて、2頭のメスとの間に16頭の子をもうけて「グレートファザー」として親しまれた永明を名残惜しそうに、スマートフォンで撮影していました。セレモニーでは3頭の成長を記録した映像が流されました。

一方、上野動物園（東京）の「シャンシャン」は21日、中国に返還されました。多くのファンが園は成田空港に集まって、旅立ちを見届けました。今後はパンダ保全のため、約600頭を飼育する中国で交配相手を探します。

他紙と比べて

2025年大阪・関西万博を運営する万博協会は、来場者の移動手段として活用する「空飛ぶクルマ」の運航事業者に、ANAホールディングスや日本航空など4陣営を選定したと発表しました。社会面で4陣営とそれぞれが使用する機体のイメージを紹介しました。大阪・関西万博は、4月で開幕まで2年となります。4月には、パビリオンの起工式が行われます。本紙は万博を巡るニュースを丁寧に報じていきます。